



2024年度は6講座

北近畿校運営委員会で進める次年度講座の検討は大詰めを迎えています。

次年度講座は6講座を予定しています。時事問題講座、写真講座、寄席芸鑑賞講座、歴史講座、漢字学講座の5講座は継続実施します。

新講座「北近畿探訪講座」をスタート!

従来の自然科学講座の自然系とすご技講座を合体して新講座「北近畿探訪講座」をスタートします。

自然系は、北近畿の地質についての講義を座学と現地フィールドワークで、また、植物や動物のフィールドワーク、北近畿特有の気象に関する話など。すご技系は企業訪問や、「野生動物の保護・管理」のお話など。探訪講座の名にふさわしく多方面から北近畿を探訪します。

継続講座も含めて来年度も社会人大学校講座をお楽しみください。

すご技講座

★2024/3/6(水)日東精工

(7月から延期したもの) お忘れなく!
・集合場所等は別途連絡します。他講座からの振り替え受講などを希望される場合はお問い合わせください。

公開講座

★2024/3/4(月)午後

- ・会場：市民交流プラザふくちやま
市民交流スペース
- ・内容：内田 樹 講演会
- ・テーマ：
「新世界秩序と日本の未来
～米中の狭間でどう生きるか～」
- ・受講料：500円
- ・予約不要。どなたでも参加いただけます。詳細は後日チラシで。



11月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのもあります。ご了承ください)

◆時事問題講座 11月7日

「介護をめぐる最近の事情」 講師：北川慶子氏

日本の人口分布図は1970年のピラミッド型から2025年の団塊世代が後期高齢者期を経て、2040年・2060年と壺型に変化していきます。壺型になるのはドイツ・韓国も同じで介護保険制度も現在有るのは世界でこの3カ国だけです。我々は暦の年齢に関係なく自分らしい人生を自立して生きていきましょう。その為に介護保険制度が有ります。今日日本の平均寿命は84歳ですが健康寿命は74歳なので介護を受ける期間が10年有ります。又65歳以上の認知症患者は2025年で5.4人に1人と予測されています。少子高齢化が進む中、公費負担や医療介護の人材確保(東南アジアからの人材)等課題となっています。健康寿命を伸ばす事は目標です。生きがいを持って社会活動に参加していきましょう。体育の先生方からは、現在のしっかり食べ物を取り動くことが10年後の自分を作ると言われています。



介護を受ける時期が迫ってきた身には大変参考になる講義でした。資料も多くわかりやすくありがたい。

年齢による退職は差別だというお話でしたが、一方で一定年齢に達したら責任ある立場から退き新たな人生を歩むことも必要ではないかと思いました。

年齢のみで退職させる「退職制度」は差別だという指摘にはびっくりしました。考える必要があると思いました。



◆**すご技講座** 11月8日
長田野工業団地 GS ユアサ工場見学

日程変更もあって、申込み受講者の半分弱の参加で少し残念でしたが、バッテリーの製造工場見学という貴重な経験をしました。最初に会議室で GS ユアサの会社概要と鉛バッテリーの製造工程の説明を受けました。リチウムイオンバッテリーは企業秘密が多いということで、自動車・バイク用の鉛バッテリーの工場見学になりました。

すご技はどの講座に出ても知らないことばかり。自分がいかに何も知らずに生きてきたかを思い知らされます。車のバッテリーがあがって交換してもらったことがあったが、そのバッテリーがこんな風に作られるなんて！バッテリーを見る眼が変わりました。

50kg の鉛のインゴット(99.99%のリサイクル鉛を含む)を溶かし、圧延してシート、極板を作り、それをプラス・マイナスのエレメントにして電槽(容器)に詰め、希硫酸を注入して製品にするという一連の工程です。年間 290 万個の製造工場です。筆者も十分、言葉などを理解していないので、簡単に書きましたが、受講生の皆さんの中でも理解は難しかったのではないのでしょうか。しかし、初めての内容で興味深かったと思います。

工場内は作業工程だけの労働安全だけでなく、歩車分離、歩道横断は指差確認など、場内安全、品質管理、作業改善に取り組み、素晴らしい工場であることが実感できました。



機械と人との連携で良い製品ができています。



◆**寄席芸鑑賞講座** 11月9日
「演芸作家の視点から学ぶ」 講師:石山悦子氏

今回の寄席芸講座は、脚本家の石山さんにご講義頂きました。漫才や落語、そしてコントなどの脚本を手がけていらっしゃる。特に脚本のアプローチについて、日常の出来事や体験談を交えてお話しして頂きました。

例えば、対立、医者と患者の会話など、さまざまな要素が脚本におけるヒントとなり得るということでした。そして、漫才やコントの変化や進化を垣間見るために、現在の漫才と昭和時代のコント 55 号のビデオを紹介していただきました。その比較から見える違いは興味深く、又、夫婦漫才が一般の男女のコンビに変わったりと、組むコンビの関係性の違いやスピード感やボケツッコミのスタイルの変化もあり、お笑いは時代とともに変化して進化している様です。

風刺ネタなども昨今では難しいとのご説明もありました。この変化の中で、自分で周りの面白いことを発見し、それを脚本に取り入れることが、新しい脚本をうむのでしょうか。自分でも何か面白いストーリーが思い浮かぶのではと思わせて頂ける想像力の広がる講座でした。



シナリオ作りだけでなく、日々の暮らしの中で、いやな事があっても考え方で、楽しく、おだやかな心で、過ごせると思えてきた。

日常の困り事なども笑いのネタになること人生の楽しみ方を1つ教えてもらえました。

漫才のネタが日常にあることで、身近に感じることができた。



◆歴史講座 11月15日

「中国はどのようにアメリカに次ぐ大国になったのか、
歴史的考察」 講師：鈴木元氏

現在の中国のGDPは日本の約5倍で、誰もが大国と認識する国となった中国。なぜこれほどの大国となったのか、その歴史から解きほぐす内容でした。

始めに、講師の一族は120年にわたり仕事などを通じて中国と向き合ってきたという話がありました。この経験から中国は「法治」国家ではなく「人治」国家と捉え、中国を考えるときには、このことを意識する必要があります。

2000年と言われる中国の歴史は、遊牧民族と農耕民族が入れ替わり支配してきた歴史でもあります。最後の遊牧民族支配の王朝は清で、その次の中華民国以降は漢民族の政権となり現在も続いています。

さて、中国発展の話。中国は文化大革命の疲弊からの回復を目指し改革開放政策で市場経済へ舵を切り、その後の発展に繋がっていきませんが、この政策が成功につながった理由はどこにあったのか。

- ・「革命」から30年しか経過していなくて、資本主義経営を知る人が多くいたこと。
- ・東アジア中心に3000万人の華僑が存在し、大きな外資が活用できたこと。
- ・世界の大企業が多国籍化し始めた時期と重なり、中国への投資が大きく伸びたこと。

など複数の要因が影響しているとの説明。

その後、大国になるにつれて「偉大な中華民族の復興」というスローガンのもと、アメリカに追いつき追い越すことが大きな目標となっていく。その中で、かつての清の影響力が及んだ地域を取り戻すという「核心的利益」が強く主張されるようになり、台湾問題もその中の一つであると。

今後、中国はどうなっていくのか、アメリカを追い越すのか？講師の考えは否定的で、その理由の一つは急速に少子高齢化が進んでいることだと。

どうなる中国、今回は目が離せない中国の話でした。



40年も前、日中友好ムードは盛り上がり、その中で聖人君子の書として毛沢東を読みました。当時の中国は、甘栗と万年筆の国であり、ちょっと気弱な笑顔の人々の国でした。今、世界の強国となった中国とはギャップが大きすぎ、私たちの世代には中々受け入れられないように思います。

少数民族と独特の文化、どこでどれだけ本当に尊重されているのでしょうか。



◆写真講座 11月21日

「長安寺の紅葉」 講師：四方智基氏

前回のコスモスとバラの振り返りタイムでは、透け感ある花びら、光と影、バックの色合い、一つの被写体に設定を変えていろいろ試して、工夫し楽しんでおられる様子がよく分かりました。花に集まる蜂や小鳥のアップなど、花だけでなくちょっと他に気を配って面白い写真もありました。

自然相手の撮影会は、今年のように季節の進み具合が例年と随分違うと、本当にひやひやです。両丹日日新聞には早くから「長安寺の今年の紅葉見ごろは短い」記事が掲載され、随分心配しました。講座の日は晴天に恵まれ、座学に借りた憩の家の座敷はポカポカでカメムシ多数！ 境内ではイチョウの黄色が日に照らされて輝き高く伸びていました。一方カエデは、茶色く枯れたような色の枝も交じり、長かった猛暑水不足が影響？か、少し残念。輝く紅葉を見つけるのも腕の内と、被写体を探して境内をウロウロしているうちに日も陰り、惜しみながら撮影タイム終了です。

紅葉そのものは残念でしたが、光の当たり方がすてきな景色でした。それがうまく映っていればうれしいです。

説明を何度も聞いているうちに使い方が少しずつわかるようになっていっています。息子に「お母さんスゴイ!!」と驚かれたことがありました。講座で撮る写真も自分が撮ったとは思えないような良い写真でとてもうれしいです。

◆自然科学講座 11月16日

「ロボットと社会のかかわり」 講師：倉本到氏

ロボットと社会のかかわりは、ロボットと人間の間をどうやってとりもつか、とも言えるということです。近年コンピュータ業界は生成 AI なども加わり言葉（対話）でコンピュータが使えるようになり、大きな変化が現れてきていて、多くの場所・場面で使われるようになってきました。

今まで人間が得意としロボットが不得手な分野とされてきた自由度の高い会話が、ロボットにできるようになり、さらに想像力にも及び進化してきています。このためロボットの使用範囲は拡大しています。

講義の中で、ロボットも働き続けると過労死するという話があり、ロボットの医者（たぶん技術者のことだと思います）に診せる必要があると言われ、そこには、ロボットでも人間らしく見る目があってもいいのではないかと語っておられました。

講義の翌朝、「ウルトラ重機」というBSのテレビ番組で、新幹線の保守・改良などを行うロボットを紹介していました。講義との縁を感じ見入っていましたが、すご技の連続で、架線部取付金具の交換作業などは人間の80倍の能力を発揮しているということで、ロボットの力を借りることが必須のところまでできていると思いました。福島原発の燃料棒容器内の撮影などは100%ロボットでないとあり得ない、特異な分野だと言えます。人間では不得手だと言われながら兵器や戦争の分野において使いたがる、やりたがるは人間のみの分野かも知れませんが、使われたくないと思うのは大方の声ではないでしょうか。



大変おもしろかった。なんかロボットが好きになった。今後、ロボット・生成 AI と上手に付き合わなければ…と思う。

普段は難しいと思ってスルーしていましたが、今日は大変分かりやすく話をさせていただきました。これからは AI、ロボット記事も興味を持って見ていきたいです。

ゴルゴ松本さんの話は、感動的です。漢字の成り立ち、解釈に違いがあったとしても、許される範囲だと思います。漢字って自分の思いによって解釈出来るので面白いなと…。学問的に間違っているけど、私達、高齢者には、ゴルゴさんの内容、納得出来ました。

◆漢字学講座 11月30日

「-(マイナス)」を「吐」けば夢は「叶」う

講師：久保裕之氏

12月12日が漢字の日なので、日本漢字能力協会が行っている「今年の漢字」を投票箱に投函しました。さて、皆さまはどんな漢字を考えましたか？発表が楽しみです。

芸人のゴルゴ松本さんが、全国で講演している（少年院にも出向く）話題の「命の授業」は、漢字を人生訓にあてはめているが、はたして、漢字学とあっているのか？実際、松本さんの講演内容と漢字学を比較して説明していただいた。

あいうえお は、愛（母の）ではじまり、恩で終わる。しかし、「おん」ではなく正しくは「をん」であるため当てはまらない。

「吐」くの嫌なことをはいていきーマイナスをとると「叶」と言っているが、中国では、叶は、葉っぱの葉である。それでは叶姉妹は葉っぱ姉妹になってしまう。このように、松本さんの講演は、漢字学とは、当てはまらにくいが、松本さんは、気配りができよく勉強はしている人である。白川静の名もでてきた。

たとえ当てはまらなくても漢字を使い講演するのは、いいことだと思った。

五十音でも、こんな深い歴史があったのかと感心します。

「謝」「慢」「這」などの訓義がいろいろあって、興味深い。考えさせられる。

